

ICT活用に8割以上関心

青柳会長「安全性軸に導入を」

群馬建協が調査

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は3日、ICT（情報通信技術）活用施工について実施した会員アンケートの結果を発表した。同施工についての関心の質問では「関心が非常に高い」「関心がある」「やや関心がある」を合わせた回答が経営者で86%、技術者で88%となった。調査報告書は今後、各種意見交換会で活用するほか、国土交通省や関東地方整備局、群馬県などに提出する予定だ。経年調査も実施する。

アンケートは、2月7～14日に会員279社を対象に実施し、268社（96%）から回答を得た。ICT活用施工のこれまでの取り組みについて（複数回答）は、「ICT活用施工の実績がある」29社、「ICT建設機械を所有している」5社、「UAV（無人航空機）を所有している」26社、「社内にICT活用施工を目的と

した研究会・勉強会を組織している」6社などの回答が寄せられた。一方で「未着手」71社と「無回答」42社を合わせた113社は回答社の42%にのぼった。

さらに、ICT活用施工を条件とした発注があればどう対応するかとの質問には、「自社の規模や通例の受注工事ではICT活用工事はなじまない」「技術者などの準備が整わないので参加しない」「関心はあるが、ICT活用

施工は実費以外の経費が必要そうなので当分見合わせる」といった消極的な回答が60%（160社）を占めた。

経費を発注者が負担するから参加する」「経費は増加し手がかかるだろうが、先行投資として参加したい」「参加したい」の積極的な回答は36%（96社）にとどまった。いずれの質問でも完工高が多い企業ほどICT活用施工に積極的な回答の傾向がみられた。

回答率が高いことや経営者、技術者ともに関心が高いことについて青柳会長は「人手不足の危機意識の裏返しではないか」と分析。「建設産業は人づくり産業」のため、ICT活用は生産性向上の面だけでなく「安全性を軸に考えるべきだ」と指摘した。

さらに「こうすれば安全になる、効果が出ると現場でワクワク感が出れば、企業文化として最終的に定着するのでは」と期待を寄せた。

会見する青柳会長



「ICT活用施工で増額す